

五十嵐方（幼名） 國文學者、文學博士。明治七年十一月二十一日山形

縣生れ、昭和二十二年一月十一日歿（二六四一四四）。號巴千、甲爲園

主人、甲爲園人。明治二十八年東京專門學校文學科卒。大正九年早稲

田大學教授、十二年同大文學部長。

著譯書 『近松之研究』（合著・坪内逍遙、網倉梁川編、明治二十二年十一月十五

日春陽堂）、エー、サー、テーロニ著『兒童の研究』（譯補、明

治二十九年二月十五日金尾文淵堂）、『趣味の傳説』（大正二年八月

十日）『松堂書店）、（註）『文學講話』（稻毛詔風合著・早稲

田文學社編、大正二年七月二十五日文學普及會）『文學普及會講話叢

書』（、（註）『八重葎』（大正八年四月四日松文堂書店）、『平家物語の

新研究』（大正十二年十月八日春秋社）『早稲田文學』（「レット」）、

『甲爲園隨筆』（大正十二年五月十日銀鈴社）、『甲爲園書簡集』（大

正十二年十月十五日勸業書院）、『現代文章作法講話』（合著・大正

本文學會編、大正十二年十一月二十五日國民教育普及會）、『名著斷

片』（編、昭和二年四月二十日早稲田大學出版部）、『五十嵐方集』

（第一『野草集』昭和二年五月十日、第一・歌謠集『我れ面白』八月

十日、第二『遠近（まぢり）』十月十日、第五『雲來去』四年十月

五日、第六・（趣味の傳説集）『口禱珠玉』五年五月十日海井雄文堂）、『我れ

（二人國民道』（昭和四年十一月二日早稲田大學出版部）、『軍記物語

研究（其胎生發達譯註及び創造批評）』（昭和六年二月十五日早稲田

大學出版部）、『小學讀本批評座談會』（共著・坂崎坦編、昭和七年

四月十日朝日新聞社）、『日本文學講座・第五卷（平家時代下編）（合

著、昭和七年九月二十五日新潮社）、『平家物語の新研究』（内題「改

- 『新平家物語の研究』(昭和八年二月、千白春秋社「春秋文庫」)、  
『國語の發達・部分篇』(昭和八年十一月、千白早稻田大學出版部)、  
『國語の讀書』(昭和十年六月、千五百十葉、千葉縣圖書館「叢書」)、  
『十一葉集』(昭和十年十一月、千五百早稻田大學出版部)、  
『我孰轉々』(白鳥岩吉編、昭和十一年十一月、千八百東苑書房「學藝叢書」)、  
『古文學の現れたる日本精神―大和民族の持つ二つの無限性』(昭和十一年二月、千五百教養會「教養叢書」)、  
『國語藝術篇』(合著、昭和十一年八月、千五百朝日新聞社編刊)、  
『日本古典の講義』(昭和十七年十月、千五百道統社)、  
『國歌の胎生及發達』(昭和十八年八月、千五百博文館「文化選書」)、  
『國語源氏物語』(昭和二十四年十一月、千五百嵐力博士「完譯源氏物語」)  
刊行贊助云々等。